

特 113

116

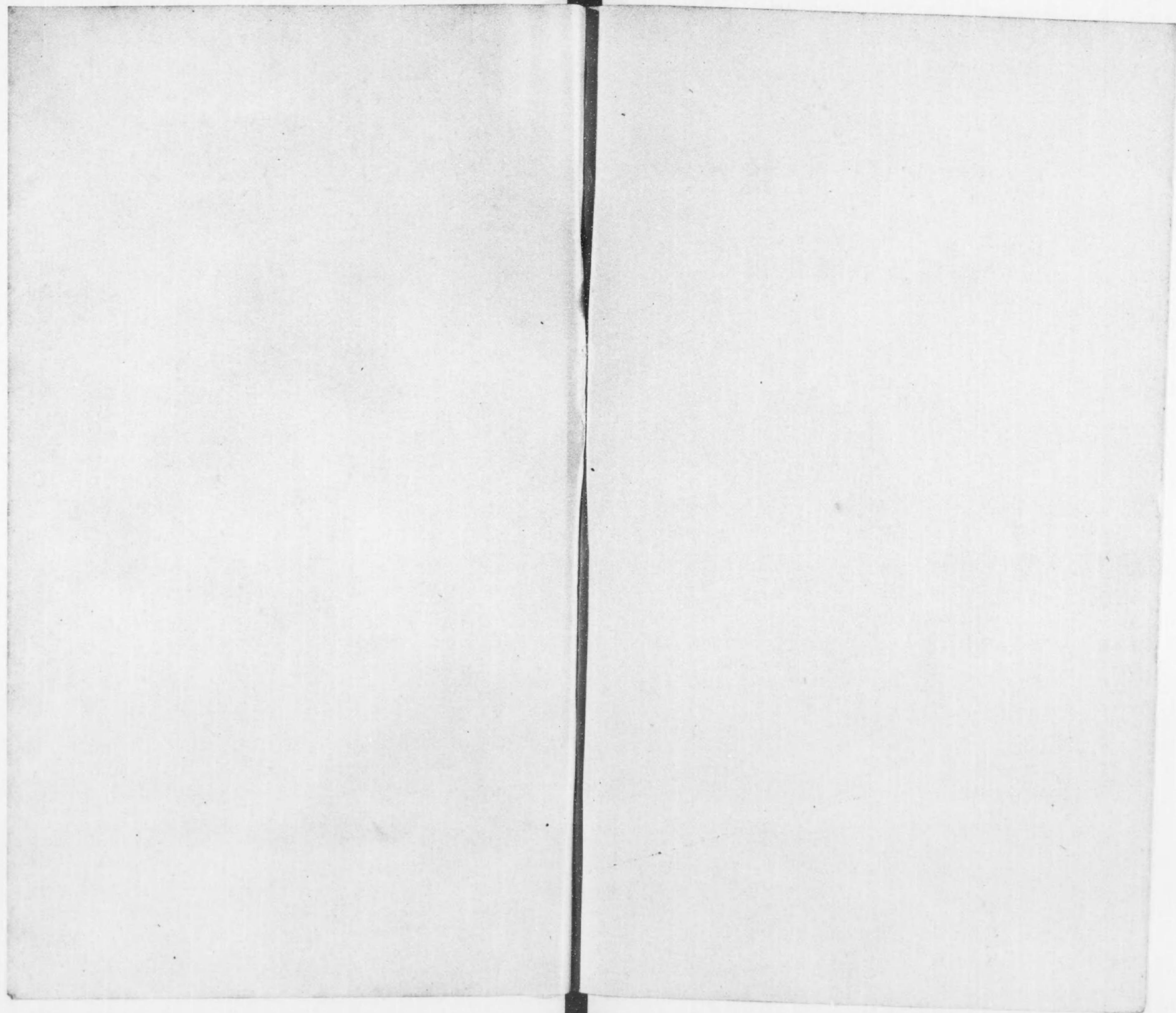
仁德天皇御事蹟

〔附堺市名所案内〕

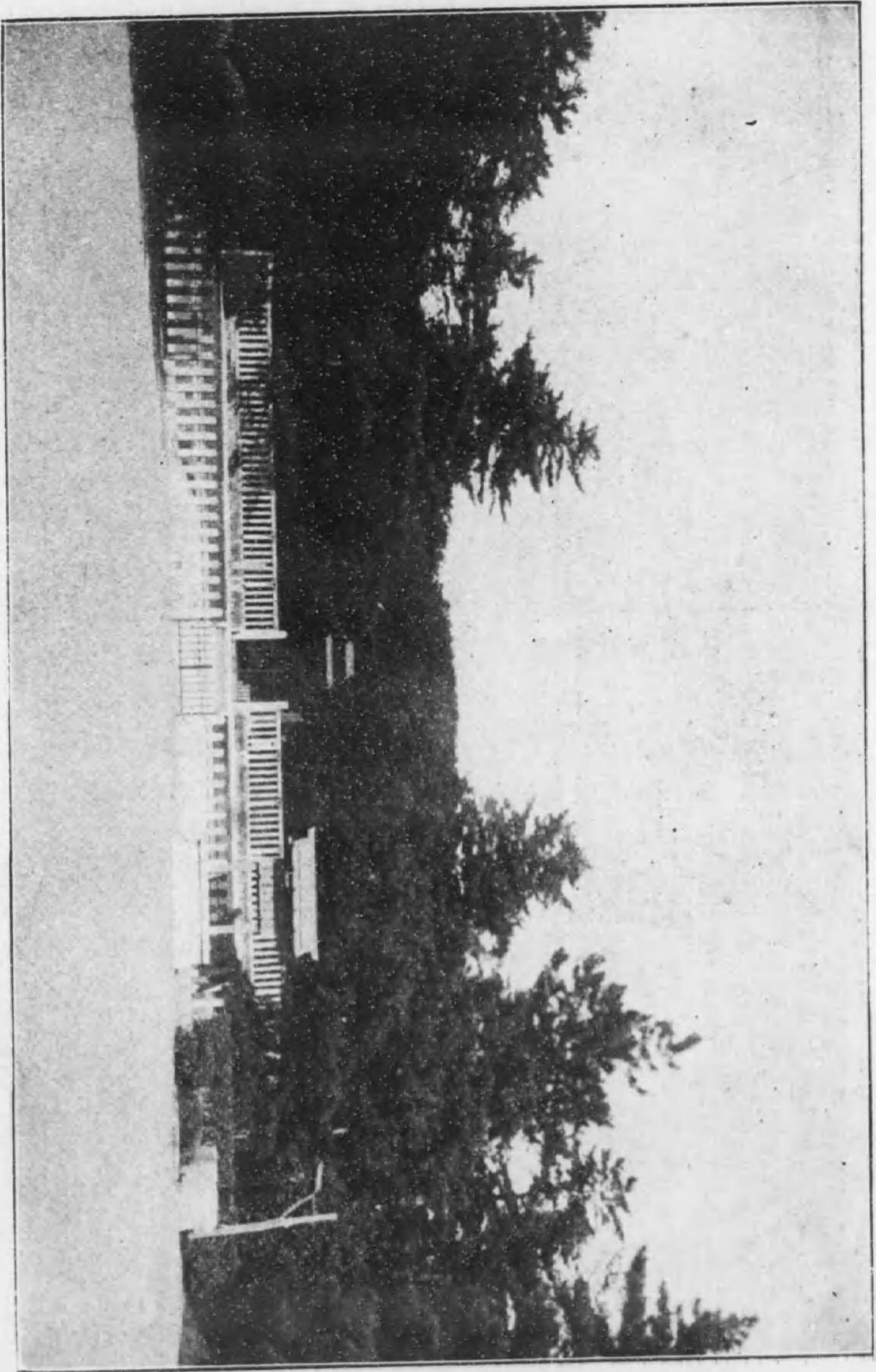


始





特113
116



(松舳市堺) 陵中原耳鳥舌百皇天德仁

醇 良 清 酒



ロ ン キ

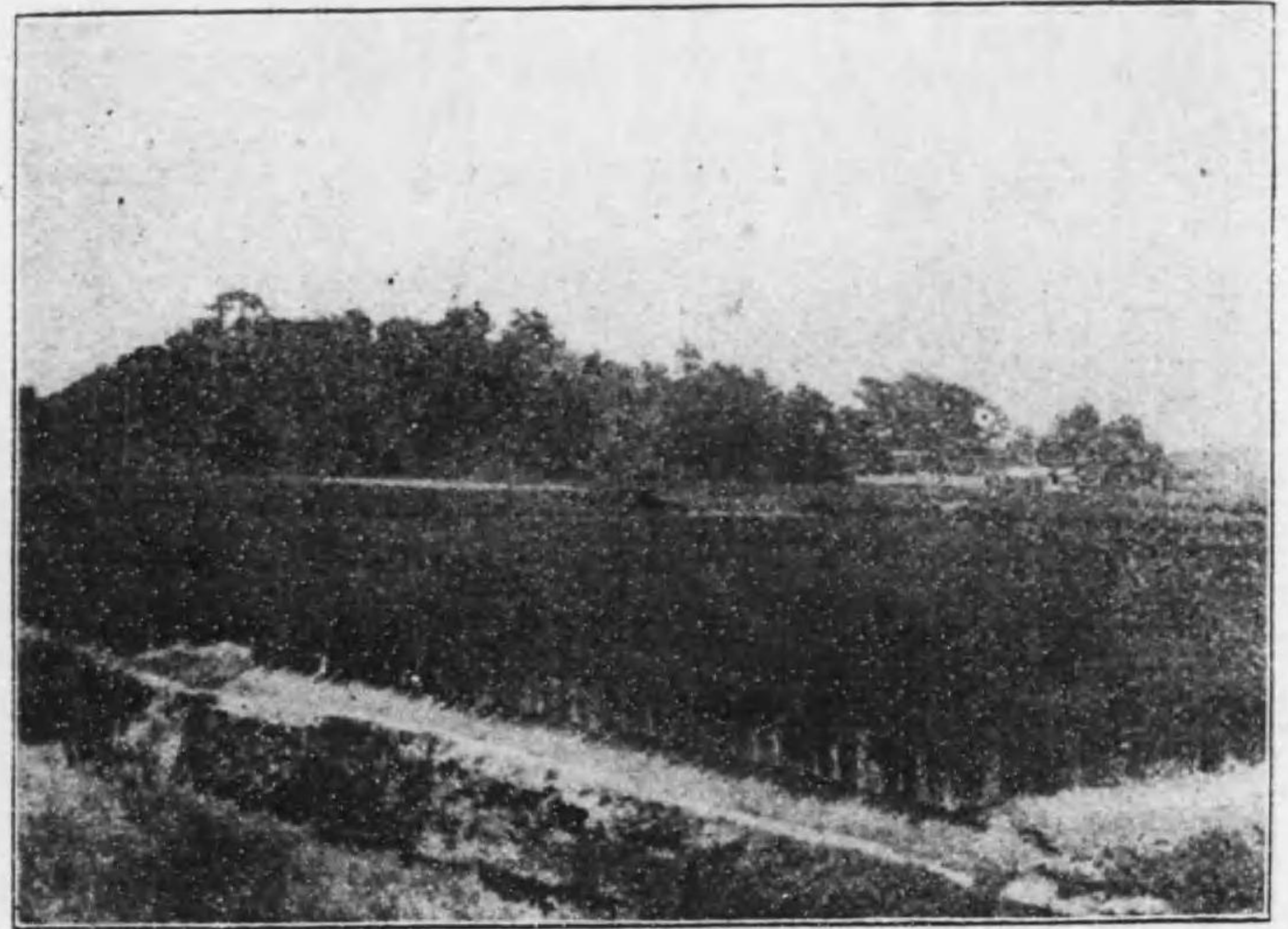
大阪府堺市

大塚合名會社

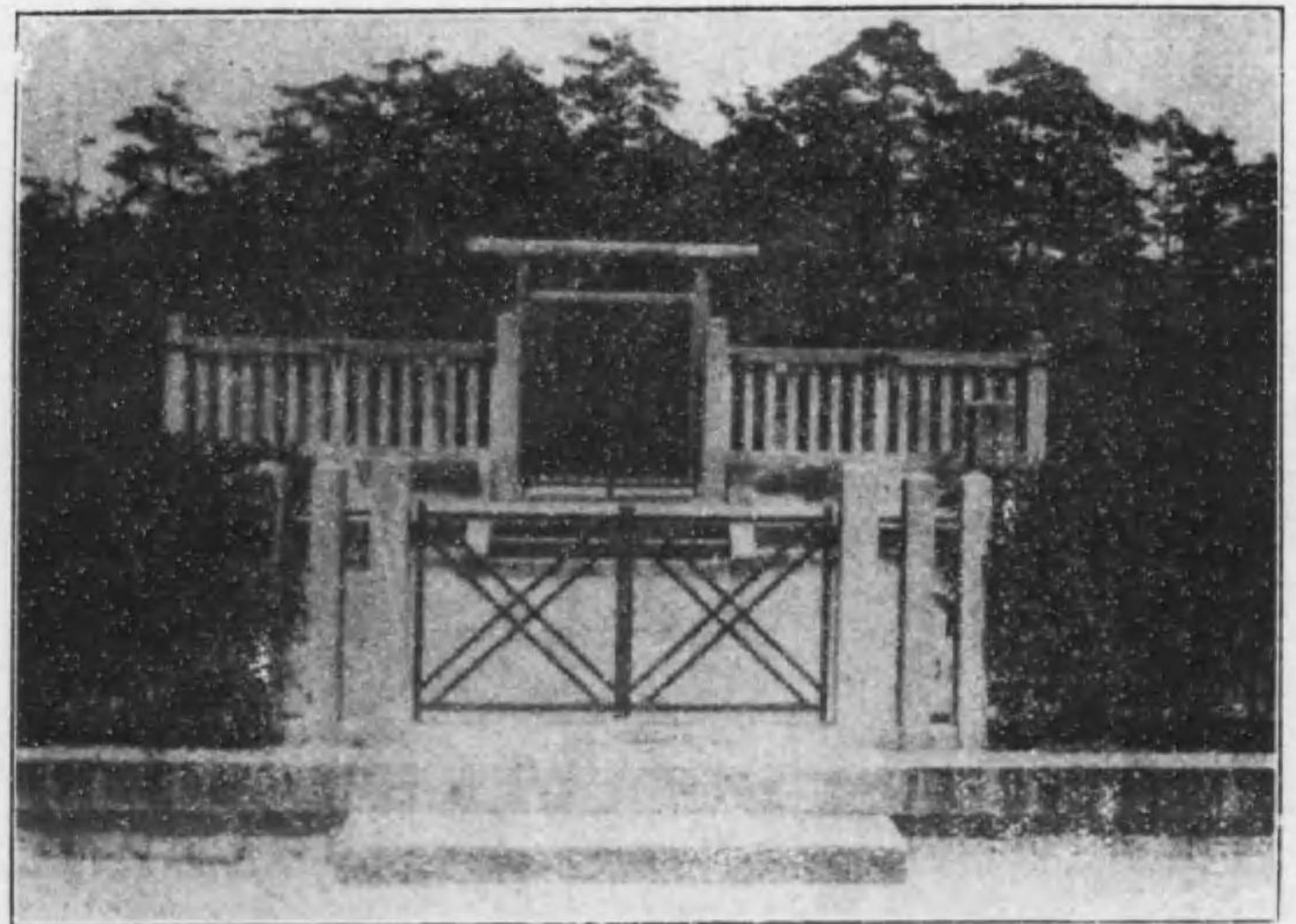
醸造所 堺、灘、魚崎、住吉

支店

大阪、小樽、長崎
安東縣、平壤



(石神郡北泉) 陵南原耳鳥舌百皇天仲履



(丘國三市堺) 陵北原耳鳥舌百皇天正反

本書目次

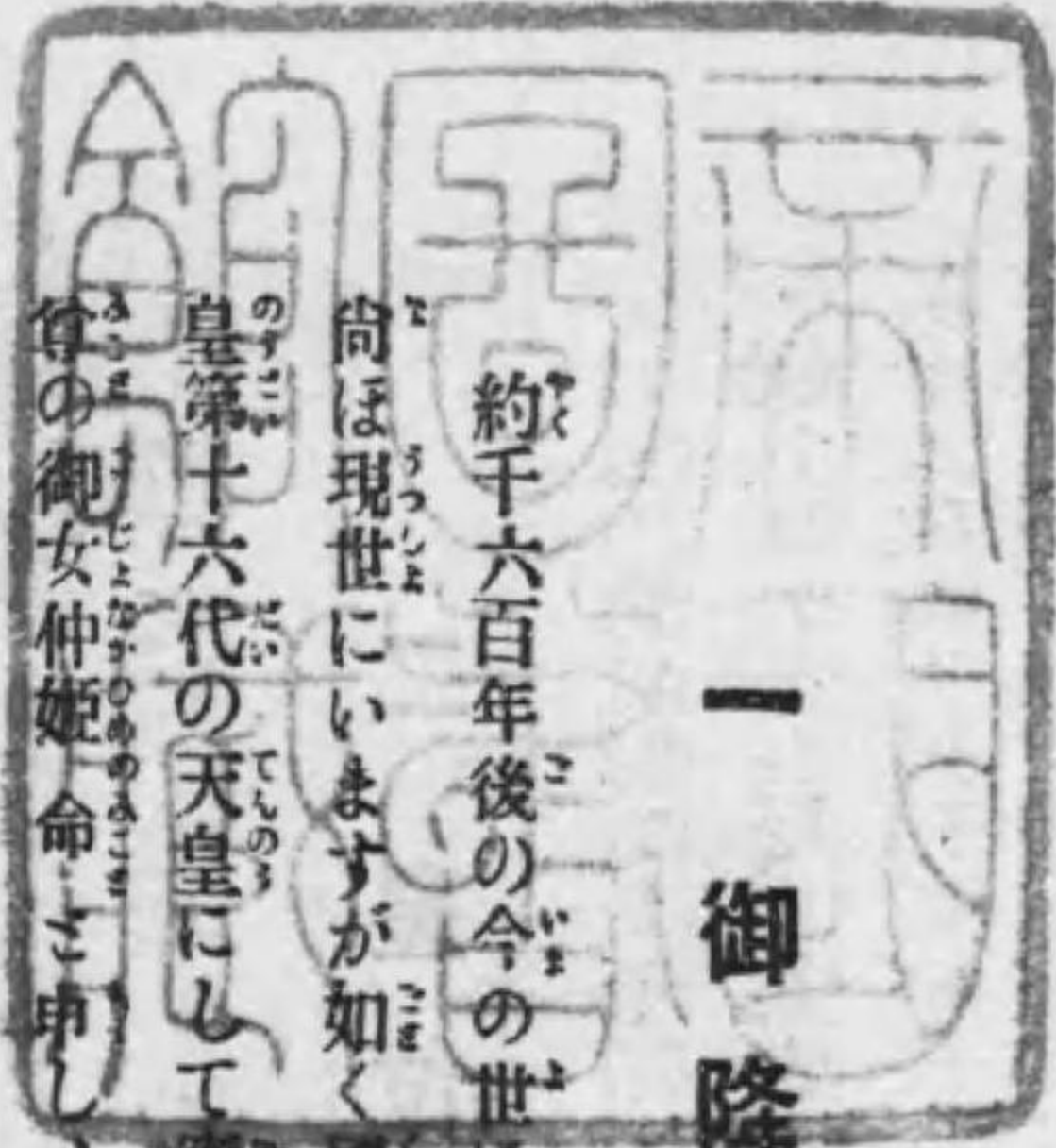
- 一、御降誕時の奇瑞……………一
- 二、皇位繼承の美談……………二
- 三、課役を免じ給ふ……………五
- 四、萬民子來宮殿成る……………八
- 五、御一代の大事業……………一〇
- (イ) 大大阪の基礎事業……………一〇
- (ロ) 淀川の治水事業……………一一
- (ハ) 灌漑の便利—凶歳の備……………一二
- 六、君臣は猶父子の如し……………一四
- 七、聖恩禽獸に及ぶ……………一六
- 八、御武徳中外に輝く……………一七

- 九、古今の及ばざる所……………一八
- 十、高津宮の宮址……………一九
- 十一、天皇神去り給ふ……………二一
- 十二、壽陵を築き給ふ……………二二
- 十三、履仲天皇の御事蹟……………二五
- 十四、反正天皇の御事蹟……………二六
- 十五、御陵道新に成る……………二八

附 録

- 堺市大觀……………一
- 名所案内……………九
- 年中諸行事……………一四

目次終



仁徳天皇御事蹟

玉置住定謹編

一 御降誕時の奇瑞

約千六百年後の今の世に至るまで聖帝の御譽れいよく高く、博愛仁慈の大君として玉置も
 尚ほ現世にいますが如く國民の追慕崇敬措かざるは實に仁徳天皇にて在はしますなり。天皇は人
 皇第十六代の天皇にして應神天皇の第二皇子にあらせられ、御母は景行天皇の皇子五百城入彦
 尊の御女仲姫命と申し、天皇は應神帝の御宇二十一年庚戌即ち紀元九百五十年を以て大和國
 輕島豐明宮にて御降誕あらせられ御名を大鸕鷀尊と稱し奉つる。

天皇御降誕の時、一羽の木菟御産殿に飛び入つたが、此の日大臣武内宿禰の家にも男子生れ、
 その産室に大なる鸕鷀飛び入りたるを應神帝の聞召す處となり、直ちに武内大臣を御前に召し出

大証
 15. 9. 29
 内交

油醬

良純

キッコト印!!

戸母
日母下



堺市中之町西三丁
電話四十九番

店商祐又源川戸 元造醸

されて宜く、朕の皇子の卿の子を同うして産れども鳥産室に入るの奇瑞あり、其の鳥の名に因みて相かえて子に名づけ、以て君臣他日の契みなさば如何に、武内大臣直ちに御請けしたてまつり皇子には大鯨鵜尊、武内大臣の子には木菟名つけたきは歴史の傳ふる處である。何事も簡易を尊び、而も其の時代に於ける君臣間の情誼が君は父、臣は子の如く濃であつたことが皇子御命名物語りによつても知られ眞に美はしき事柄ではないか。

二 皇位繼承の美談

或時、應神帝には天皇の皇長子大山守の兩皇子を御前に召されて宜く「汝等長子小子を孰れを愛するか」ミ大山守皇子は直ちに「長子を愛す」ミ御答へ遊ばされた。蓋し帝が此の間を發せられたるは、少子稚郎子の恭謙温良にして聰明なるを甚く愛し給ひ、立て、皇太子となさんこの御心をはしたるより兩皇子の意中を揣り知らんがためであらせられたのである。されば大山守皇子の言は帝の悦び給はぬ處であつたとは申すまでもない。天皇の聰明なる夙より父帝の御意中を推し揣り奉つてゐたので「長せる者は父母の膝下にありて鞠育の恩を重ねるこゝ年久しく、且

つ年齒亦長じ世に處するの經驗をも積み居るが故に其の前途は復た憂ふるに足らざるも少子はこれに反するが故に長子にまさつてこれを愛す」ミ御答へ申した。父帝には深く喜ばせ「汝の言寔に朕の意にかなへり」ミ仰せられ遂に稚郎子を立て、皇太子となし、天皇をして補佐の任に當らしめ給ふた。

其の後應神天皇は御世をしろしめすこゝ四十年紀元九百七十年二月崩御し給ふた。皇位は一日も空うすべきでない。先帝崩御の其の瞬間に於て皇太子が踐祚あらせらるべきは天祖の定め給ひし大憲である。然るに皇太子稚郎子は「長者が皇位を繼承し、聖者が君となるは古今の常典なるに先帝を立て、皇太子となしたるは私情に基いての事である。私情を以て公道に代ふる事は宜しからず」ミ位を避けて菟追に閑居し天皇を推し奉つた。然るに「天皇は先帝御在世時代皇太子は冊立せられ皇位繼承は既に定つて居る。今にしてこれを破るこゝは大義名分を紊るものなり」ミて位を受す居を難波の地に移して之を辭し給ふた。斯くして相讓るこゝ三年に及び、國民は其の適く處を知らず、貢租道に迷ひて民悲むも天皇の御心はますく堅固に在はして位に即せらるべくもない。稚郎子は到底天皇の志を變ず能はざるこゝを知召して死を以て賢者を推さ

せ給はんご御決心あらせて遂に自殺し給ふた。此の悲報は早くも難波の宮に傳わられたるより、天皇は大に驚き奔せて菟道に至り太子の遺骸を抱いて慟哭し素服して喪に服し給ひ禮を厚くして太子を葬り奉つた、于時紀元九百七十二年である。

皇太子稚郎子は自殺して世を去り、皇兄大山守は先帝崩御の際皇太子稚郎子を廢して皇位に登らんとして反を謀り、太子の知る處になつて誅せられて在はさず、皇位の繼承者は天皇を措いて他にないので、天皇は止むを得ずして天位に即せ都を難波の地に奠め高津宮と稱し給うた、時に紀元九百七十三年正月三日、天皇御年二十四歳であらせられた。

「孝は百行の基なり」は古聖賢の訓にして教育勅語の中にも「爾臣民父母に孝に、兄弟に友に」この御言がある、思ふに我が國津々浦々に至るまで教育勅語を奉讀せざる學校はなく教育勅語を知らざる國民はない筈であるにもかゝらず教育勅語の御精神を實地に踐み且つ行ふ者はまことにすくないのである。國民精神作興の御詔書の中に「宜しく教育の淵源を崇び——人倫を明にし——忠孝義勇の美を揚げ」を仰せたまひし御意味は教育勅語を精神的に讀み、而してこれを人格化せよとの事にてあらせらるべしと拜察せらるゝのである。

此の尊き御教訓を今より約千六百年の昔一天萬乗の尊き御身を以て實踐窮行、範を國民に垂れさせ給ひしは實に仁徳天皇にて在はしますのである。天皇が已を空うして幼弟を皇太子に推して父帝の大御心を慰めたてまつたのは孝の極みであり、父帝崩御の後大義名分を守つて天位に即せられなかつたのは孝のあらはれである。幼弟が皇太子の位に登るや節を屈して補導の大任を盡させられたことは所謂兄弟に友なる所以なりと信するのである。

思ふに天皇と稚郎子とが已を空うして皇位を相譲りたまうたことは實に日本民族固有の清く美はしき道義的觀念と儒教の教訓とが渾然融和して一の大きな美しき果を結び、皇位繼承の國家的一大問題に際會して端なくも發露顯現せるものといふべく、其の精神に生き、無形に活きんとする天皇と稚郎子の御行動は當時の社會に對するばかりでなく、爾來約千六百年間我が日本國民に與へられたる不言の一大教訓にして世界の何れの國の歴史にも類のない所の美談である。

三 課役を免じ給ふ

天皇御宇の四年或日高き御殿にのほりて四方をのぞみたまひしに村々より立つかまごの煙少か

りしかば其の二月六日群臣を官庭に召させて

朕高臺に登つて遠望せるに城中に炊煙起らず。思ふに百姓貧しく家に炊ぐものなきためならん朕聞く古聖王の世、王の徳を詠するの聲國民の口に絶えず、幸福を祝するの歌家々に起りたり。今朕億兆に臨みてより茲に三年に及ぶも國內朕の徳を詠するの聲なきのみならず却つて炊煙の疏なるは即ち五穀稔らず、國民窮乏せるためにして全く朕の不徳の致す處なり。皇居に近き地方すら尙ほ斯の如し、畿外諸國の窮乏の程を察せらる云々

詔りたまひ、其の年三月二十一日自今三載、悉く課役を免除し、國民の苦を息むべしこの大詔を煥發あらせられ、天皇には大詔の精神を實踐窮行あらせらるべく、官庭の垣頼るゝも繕はず、屋根壞るゝも葺ず、只管儉素節約を守らせ給ひしより、畏くも九重の大奥には雨漏るゝに至り、桶を以て其の漏るゝ雨をうけ、玉座を雨の漏れざる處に遷し避け給ひし傳へられて居るが。賤の伏家にも劣りたる見すほらしかりし光景は今尙ほ眼前に髣髴たるものがある。

天皇の御儉徳は天神地祇も如何でか感應ましまさぬ事のあるべき、爾來五日の雨十日の風時順に、豊年うちつづき人民皆富みて村々の煙も盛に立ちのほるに至つた、日本書記仁徳記に

七年四月、天皇臺上に居し、而して遠くに望むだに烟あり。氣多に起つ。是の日皇后に語つて曰く朕既に富めり。豈に愁あらん乎皇后對て語まはく何をか謂ふ富めり。天皇曰く烟氣國內に滿ち、百姓自ら富む歟。皇后且つ言く、宮垣壞れて修るを得ず、殿屋破れ衣被露にほほつなり、何をか富めり謂ふ乎。天皇曰く其れ天の君を立つるこは是れ百姓の爲めなり。然らば則ち君は百姓を以て本と爲す。是を以て古の聖王は、一人も飢寒れば之を顧み身を責む。今百姓貧しきは則ち朕が貧しき也、百姓富めば則ち朕が富める也、未だ百姓富むで君の貧しきものはあらず。

と詔らせ給ひしある。これは必らずしも仁徳天皇御一人の大御心ではない。建國以來歴代の天皇の大御心にして何れの時代の天皇も決して日本國に日本國民を御一人の所有物と思召し給うた例はないが、天皇に於て初めて御言葉として現はれたのである

賴襄曰、仁徳之所以爲仁可知也。仁徳之言曰、天爲民立君。君自儉以養民。民富則君富。

大哉言乎。是我列聖之所傳。而發之於帝。所以貽範萬系也。六經所訓。百史所傳。豈有以尙此哉。

此の頼褒の文章を平易に解釋するに「仁徳天皇が仁慈な御政治を施されたわけは明である。仁徳天皇の御言葉に天は人民の爲に天子を立てられた、それで君は儉約にして人民を養ふ。民が富めば則ち君が富んだのと同じである」とある。この御言葉は何に立派で廣大無邊ではないか。此の御趣旨は代々の天皇が御傳へになつたことで仁徳天皇に於て初めて御言葉として現はれたのである。而して子々孫々に模範をお垂れになつた譯で、儒學の經典である六經の訓ふる處、多くの歴史の傳へ居る處も何うして此の御言葉よりすぐれて居るであらうか。優れては居らないのである」といふのである。眞に千古の至言を申さねばならぬ。

四 萬民子來宮殿成る

天皇諫役を免除し給うこと既に三年。曾ては細き烟だにも満足に立て得なかつた國民もこれのために富み、餘財すら生じてこれを貯ふる者も多くなつた。然るに諫役を徴し給はざりしために府庫は全く空しく、宮殿は朽ち壞れて宮中の御生活振りは恐れ多くも國中で最も見すほらしきもの、第一で在せられたるとは前にも書いた通りである。國民之を知るや争うて諫役を納め宮殿を

造營せんことを請ひ奉つたが、天皇は未だ時期にあらずして之をゆるしたまはざるのみか更に三箇年間諫役を免除せらるべき旨仰せ出されたのである。一度ならず二度までも優渥なる天恩に浴したる國民は感泣措く所を知らなかつたことは申すまでもない。此の聖恩に答へ奉るべく國民は舉つて業務に精勵したので、國內はますます富み榮へて歡の聲は國內に充つるに至り民はしきりに造營を願ひたてまつりたるより天皇は御宇の十年漸やく其の請を容れたまひて賦役を課し、宮殿造營の工を起したまひしに國民は東より西より、北より南より老を扶け、幼を携へ先を争うて都に集り、心を一にし力を協せて工事にはけみしにより幾程もなく宮殿は麗しくできあがり。幾年の賤が伏家にも劣りしいぶせき宮殿に起臥しつぶさに國民の疾苦をなめさせたまひたる天皇には百官臣僚を率ひて新宮殿に移らせ府庫亦た豊かなり、上下揖睦、愛々たる瑞氣は國內に充ちて堯舜の世にも勝りたるこそ目出度極みである。古事記の記者が

後に國中を見たまへば國內に烟滿りたりき故人民富めりとおもはして今はて課役を科ひ給ひき、是を以て百姓榮へて使役に苦まざりき、故其の御世を稱へて聖帝の世と謂す
 當時のありさまを叙して御聖徳を頌し奉つて居る。外國の歴史を繕けば帝王が宮殿王城を築く

に當り苛斂誅求民を苦めて財を集め其の費用に充て、それがために壯麗輪奐の美を極めし宮殿王城が國民呪の中心となつたといふ幾多の實例あるを吾等に教へて居る。然るに天皇の宮殿を造營し給ふや召さざるに國民子來して其の事にはけみ、宮殿は國民崇敬の的、信仰の中心となつた。彼此比較してその差眞に天淵も管ならざるものがある。斯の如きは天皇の御聖徳に我が國體に國民性の然らしむる所なりといはねばならない。

五 御一代の大事業

天皇御一代の御事業に御仁政は到底一々枚擧するに違がない、悉くこれを叙したてまつることは此の小冊子のよくする所でないので、爰には單に其の梗概を叙して御聖徳の一端をしのびたてまつることにした次第である。

(イ) 大大阪の基礎事業

現代の大阪市は東洋のマンチエスターと稱せられ文化の發達せる、商工業の殷賑隆盛なる諸般の施設は悉く近代科學の粹を集め今や名實ともに日本一の大都會であつて將來はロンドンや

ニューヨークにも相比敵するの日あるべきことを豫想せられて居るが、今より約千六百年の昔、仁徳天皇が都を奠めたまひし時代には現に大大阪の心地帯として富み文化を誇つて居る島之内船場一帯の地さへも荒涼たる海濱であり、大和、山城、河内より流れ来る諸川の水は大阪城や其の附近一帯の地を圍繞して悪水を湛へ葎荻徒らに生ひ茂り、零標によつて僅かに舟楫の便を圖つて居つたのである。

帝都の地すら既にそれである、近郊の地は荒れはてたる土地廣くして田畑はすくなく、河水は常に停滯し、一度霖雨至れば海潮は逆流して人家を浸し、道路は見渡す限りの海原さかばかり家この往復すら尙ほ舟の便をからねばならぬ慘況を嚮はして天皇は深く民の苦をあはれみたまひ十一年十一月宮北の郊原に溝渠を堀り南方の水をひきて西海に通ぜしめ、以て排水に便せるより荒蕪不毛の土地は一變して良田美畑に化し、交通の不便はあこかたもなく取りのぞかれ、大大阪の基礎は此の時に築かれたのである。

(ロ) 淀川の治水事業

其の源を琵琶湖に發し、河内、攝津の國境を南流して大阪灣に注ぐ淀川は近畿中央部の大動

脈にして地方文化の發展に貢献せる處多大なるものありたる一面に於ては年々歳々河水氾濫し兩片地方の人畜、農作物に害を被らしむるこも甚はだしく、其の治水事業は往古より爲政者を悩ましたる處にして、科學の發達は人工を奪ふまで稱せられて居る現代の技術を以てするも尙ほ困難視せられあるに今より約千六百年の昔、人智未だ開けず、技術は尙ほ原始的域を脱する遠からざるの時代にあつて、天皇は之を計畫遂行せられたのである。

天皇は御宇の十一年冬十月、茨田堤防築造を思ほし立たれ河内の人、茨田連杉子、武藏の人強頸の兩人を召して工事にあたらしめたが、非常なる難工事にして折角築き上げた土堤は幾度か河水のために破壊せられ、證方つきて強頸が自ら人柱に立ちたりこの傳説さへも遺された程である。而も飽まで仁慈に富み給ふ天皇は民の疾苦を思召されては幾多の困難も失敗も意こしたまふとなく、工人を督し勵まして其の事に従事せしめ、今の北河内郡枚方町より守口町に至る澁江西南一帶の長堤は美事に完成し、爾來爰に千六百年間河水氾濫の慘害を減じ、攝津河内一帶の民は今日に至るまで其の御惠澤に浴して居るのである。

(ハ) 灌溉の便利——凶歳の備

御宇の十二年十二月には山脊の粟隈縣に大溝を開鑿して灌溉に便し十三年九月には茨田に屯倉を建て、次で之を諸國に及ぼし、穀物を貯藏して以て凶歲に備へ、同年十月には和珥池を作り横野堤を築き十四年十一月には橋を猪甘津に架して交通に便し、同年大道を京中に作つて南門より直ちに丹比邑に通せしめ、又大溝を感玖に堀り石川の水をひいて上鈴鹿、下鈴鹿、上豊浦、下豊浦四ヶ所の効原を潤し數萬頃の良田を得、六十二年には遠江國大井川に流れて其の河曲に停りたる大木を以て舟を作り之を難波津二廻航せしめて御船に宛て給へる等、海陸の運輸交通、灌溉に力を注ぎたまへるこは國史上に著名なる御事蹟として現代に傳はつて居る。

和珥池 御宇の十三年冬十月開鑿せられ所なるも今何處であるかは明でないが、南河内郡喜志村栗ヶ池ではないかとの説がある

感玖大溝 御宇の十四年開鑿せしめ給ひし處であるで、これ又た何處であるか明に知るこゝが出来ないが、上鈴鹿、下鈴鹿、上豊浦、下豊浦の四部落に灌溉したりあるを以て見れば南、中兩河内郡を貫きたる大溝であつたこゝが推測せらるゝのである(但し上鈴鹿、下鈴鹿といふ地名は兩郡中に現存しないので、今何處であるかは定め難い)故に或は今の中河内郡恩智

の溝であるを稱して居る者があるが、恩智の溝が天然のものならずして人為になりたるものなるをは一見して明なる處、而して石川に殆んこ一直線をなせる處より考ふるに或は今の石川の此の恩智の溝に近き部分も當時改められたのであるまいか。

横野堤 中河内郡異村大字大地は此の堤のあつた處に傳へらるゝも、其の址いまは明でない。或ひは同村の西ノ横野神社の邊であるとも稱せられて居る。堤は天皇の御宇十三年十月築き給ひし處にして今も四隣の土地低濕且つ、井水は鹽味を帯びたる處から見るに潮水の侵入を防ぐために築かせられたものならんは古來歴史家の見解略ほ一致する處である。

六 君臣は猶父子の如し

古來外國の帝王にして大土木工事を起したる事蹟は尠くない、秦の始皇帝の萬里の長城築造の如きは歴史上最も著聞せる所のものである。而して其の動機と結果に攷れば其に依つて自己の勢威を天下に誇示し以て敵國を脅かし自國民を眩惑し、自己擁護保身の手段をなし若しくは虚榮を誇らんとするのが第一義にして國民の利益に至つては寧ろ第二義、第三義に置れてあつた。

れば此等の土木工事によつて直接間接利益を得るも國民は決して之を喜ばず、却つて怨嗟の聲天下に充ち、遂に易性革命の動機、原因となつた例は尠くない。萬里の長城の工事未だ竣らざるに秦は早くも滅亡したるが如きは其の好適例である。而も其の工を起したる動機より觀來れば寧ろ當然に申すべきではないか。

然るに天皇が連年大土木工事を起し給ひしも民使役に苦まず、怨嗟の聲なく、却つて喜ひ子來して其の事に従ひ、天皇の御事業をして有終の美を濟さしめ奉つたのは天皇が愛民第一義の大御心に基調して經綸を施し、國民亦た天皇の御聖旨を奉體し、天皇も國民も共に自己を空くして天祖の詔勅を快宏し、建國の理想を實現し、皇國を美化せんとする天祖に奉ずる精神の現はれなるが故であつて、外國の歴史的事實に比して洵に天地霄壤の差ありといふべきである。

大正四年十一月十日 今上天皇陛下御即位式御舉行の當日下し給はりし御勅語の中に爾臣民世世相繼ぎ忠實公に奉ず、義は則ち君臣にして情は猶ほ父子のごましく以て萬邦無比の國體を成せり

この御言がある。這是人の君に在はず天皇は父の情を以て萬民を愛撫したまひ、人の民たる臣民

は子の情を以て大君に仕へ奉る世界に類なき我建國以來君民間の美はしき關係を明にし給ひしものである。我が國の君民關係は治者、被治者といふが如き法理的、形式名詞を以てしてはこれを言ひ現はすこゝは不足にして、父子といふ自然的名詞を用ゐて始めて能くこれる言ひ現すこゝを得るのである。されば我が國にあつては天皇は長へに君に在はし、民は永遠に民である。天皇の御仁慈は子女に對する父母の御至情に基きたまひ、臣民の忠誠は父母に對する子女の至情に發して居る。至情を以て至情に對す、上下透徹して些の陰翳をも留めない。此の美はしき君民間の關係は仁徳天皇の御事蹟を拜する時、最も顯著であるこゝを感ぜずには居られないのである。

七 聖恩禽獸に及ぶ

天皇或年の夏、皇后と共に暑を高臺に避けて在はし給ひし時、兎我野に鳴く鹿の聲を聞召し、其の可憐なる哀音を深く愛でさせ、毎夜之を聞くを以て樂し給うた。天皇は或夜常の如く高臺に登り鹿や鳴くを俟たせられたが、月は中天に輝き夜は更けたるも鹿は鳴かざりしより、天皇は本意なく思ほして御寢殿に入らせられた。然るに其の翌日猪名の縣主佐伯部なるもの苞直を

獻じ、大膳職は之を調理して奉つた。天皇鹿の肉なるこゝを知召し佐伯部を御前に召して鹿を獲たる時其の地を質し給ひて皇后に向はせられ

鹿を得たる時其場所を計るに朕が愛する處のものなるべし。獲たるものには素より罪なし。雖も、朕これを食するに忍びざるものあり。彼をして皇居に近づかしむるこゝを欲せず。こゝ宜ひて佐伯部を安藝國停田の地に移したまうた。聖恩禽獸にまで及ぶ。其の宏大無邊なる御仁心の程は唯々感涙に咽ぶのみである。

八 御武徳中外に輝く

御宇の五十三年、新羅聖恩に忤れて朝貢を怠るや天皇は夏五月上毛野君祖竹葉瀬を遣はして貢を缺くを責めしめ、亞いて其の弟田道に精兵を授けて遣はし給ふた。田道發するに當り天皇詔して曰く若し新羅命を奉ぜざれば速かに之を討て平けよ。田道大命を畏み新羅に赴き聖旨を傳へたるも、頑迷なる新羅王皇命を奉ぜず却つて、兵を擧げて反抗したので、田道は直ちに攻めて之を平け、朝貢を命じて凱旋し、皇威は再び鷄林の野に光被するに至つた。

景行天皇の御宇に日本武尊蝦夷を征伏し給ひてより東奥の地久しく王化に濡ひ、又た不逞を企てる事がなかりしに、天皇の御宇五十五年蝦夷叛いて其の地亂る、や天皇田道をして征討せしめ、田道不幸にして敗死せるも賊勢亦た振はわ、間もなく平定して王化は再び浴きに至つた。

天皇の御宇中。干戈を用ひ給ひしは新羅王の間罪、東奥征伐の二回のみである。思ふに泰平長く續けば軍紀弛緩し、兵備頽廢し一朝事あるも緩急事に應ずる能はざるは歴史の教ゆる處であるが、天皇の御宇にありては昌平五十餘年の長きに及べるも一度兵を擧ぐれば頑迷不靈なる外藩憎伏して命を奉じ、内は草賊自ら平定せるの事實より觀れば文政の振興と共に軍備亦た常に充實し國民の義勇奉公の精神旺んであつたことが知らる、のである。聖恩内に普ねく昌平長く續き皇威中外に輝きたる所以のものは文政に武備を併び整ひたるがためであらねばならない。文德に象ぬるに武德を以てせらる。天皇の如きは眞に稀世の英主を申し奉るべきである。

九 古今の及ばざる所

事なくて治まる世にも民のため思ふ心は休む時なし

千萬の民に樂む樂にますたのしみはあらしきぞ思ふ
受けつきし國の柱の動きなく榮ゆる代々をなほいのるかな

此の三首の歌は明治天皇の御製であるが、仁徳天皇御在位八十有餘年間の御事蹟は畏れども此の御製で盡て居るもの三拜せらる、のである。即ち天皇御即位の始めより、御世を終はらせ給ふまで夙に起き夜半にあらざれば寢殿に入らせられず、専ら大御心を政治に委ねさせ未だ曾て一日も御倦怠の色在はしましたるこもなく、御晩年益々賦を軽くし、歛を薄うして徳を四海に布き惠澤を四方に施し給うた。之を以て風化大に行はれ、民は勤儉力行を樂み、忠順穩和を尊び。御晩年二十有餘年間、天下復た事なく、國內舉つて御聖德を謳歌し奉つた。

帝政を發して仁を施し、民其の澤を被る。蓋し古今の及ばざる處、而して帝親く之を行ふ。宜なる哉天下稱して以て「聖きなす」こは後世史家が天皇奉讃の辭で、其仁徳の謚と共に天皇の御聖德を頌し奉るにふさはしき言を申さねばならぬ。

十 高津宮の宮址

荻萩徒らに茂るに任せたる茅海灣頭の一漁村より文化の粹を集めたる現代の大大阪にまで發展の機運を開きたるは實に天皇の御奠都にある。されば大阪に天皇の因縁深きものあるは申すまでもない。然るに年所悠久、殊に推移變遷の激甚なりし土地柄の事にて天皇が四海に君臨せし高津宮の址は判明せず、從て諸説紛々として歸一する處なきは遺憾である。

明治三十二年大阪市は天皇千五百年祭を執行するに當り宮址の考證に努め東區高津北之町は高津宮殿門のありし所なりと認め民有地二百七十四坪を買収して同年十一月三日碑石を建立して紀念した、碑石は高さ九尺、幅四尺ばかり臺石の長さ一丈、幅十尺ばかりにして周圍に鐵柵を繞らしてある。明治三十六年四月市より府社高津宮に寄附し、今は同社の境外所有地となつて居る。

思ふに此の地を宮址と認めたるは攝津名所圖繪等の説により碑を建てしものならんも宮址の此の地にあらざることは學者の考證によつて明となつて居る、而して宮址を推定すべき史料としては僅かに宮北の効原を堀りて南水を西海に通せしめ給ひし堀江、高臺に登りて兎我野の鹿の鳴く音を聞き給ひたる事、及び宮の南門より直に指して丹比邑に至りし大道あるのみである。而もこれによつて宮址の何所にてありしかを探らんとするは全く至難の業といはねばならぬ。近時

大阪市では前記の史料及び座摩、生國魂兩神社の舊跡等より推斷して大阪城を以て宮址に宛て喜田文學博士も其の著書に於ても大阪城を以て宮址とみこめて居る。

抑も大阪城の地たる日本書記神武天皇の條下に見ゆる難波碕の地にして、思ふに其の時代にありては西は海に瀕し、北より東に亘りては山城、大和、河内より流れ來る諸川の水に圍繞せられ南は天王寺、住吉に連なる丘陵の北端に位して海中に斗出半島の形をなし、四望開轄雄大にして宮城の地として理想的であつたことが推せらるゝのである。故に大阪城を以て高津宮址とみなすことは肯綮を得たるものなりといはねばならぬ。

十一 天皇神去り給ふ

天皇生れながらにして御容姿端麗、玉體常に御健に在はし、天の成せる御威徳を備へさせ給ひしも肉體の老衰は人力を以てしては又た如何にもするこゝができません、御宇の八十七年正月御病に罹らせられたが、平常御強健にわたらせられし事にてかりそめの御事なからんと思ひしに御容體は日々に重らせたまひ、大君は千代ませ八千代ませ、寶算表に榮えませは赤子が天地神明に

捧けたる御腦平癒の祈願であつたが、其の効もなく御恢復の御事なく崩御あらせられたのは實に紀元千五十九年正月十六日大陽曆の二月八日で、寶算一百一十歳にてあらせられた國民慟哭して追慕し奉らざるはなく、同年十月朔百舌鳥耳原中陵に葬り奉つた。

十二 壽陵を築き給ふ

是より先き天皇御宇の六十八年冬十月、河内國石津原に幸し親しく地を相して陵所を定め、八十五年御陵築造の工を起させ給ふ。此の日附近の草原中より鹿走り來りて役夫の中に入つて仆れ死せるを樹はして天皇之を怪み侍臣をして檢せしめ給ひたるに一羽の百舌鳥鹿の耳の中より出て飛び去り、耳は悉く喙はみ割れてありたるよりそれに因みて御陵の所在地を百舌鳥耳原と稱したりと傳へられて居る。

御陵築造の事一度天下に傳はるや天下の壯丁召かざるに集り來り競うて工事に奉仕し日ならずして工が竣つた。天皇御在世中に築かれたるにより壽陵と稱し奉るのである。

註 和泉國は元河内國の一部で、天皇御築陵の頃は此の邊一帶を河内國石津原と稱したのである。

る。降つて第四十四代元正天皇の寶龜二年三月和泉、日根の二郡を割いて和泉國を置きたるが、第四十五代聖武天皇の天平十二年八月復た河内國に合し、第四十六代孝謙天皇の天平寶字元年五月再び分割して和泉國を置き以て今日に至つたのである。

御陵は堺市の東郊船松に所在し、琵琶形の丘陵蜿蜒して南北に横はり、前方後圓形にして未の方を正面とし三段に築き上げ、周圍實に二十五丁十間の延長を有して居る。其の前後の徑二百六十九間、後圓の徑百三十六間、前方の幅は百六十八間、高さは前後兩丘とも百十餘尺、三重の濠を繞らし、其の第一濠は最も深く、幅約四十間乃至六十間、第二濠は幅八間乃至十二間、第三濠は幅十間乃至十二間、陵域總面積十三萬九百二十七坪餘を包有し、遙かに望めば大山の起伏せるが如く、松杉檜等の常綠樹は鬱蒼として繁茂し、濠には四時碧水満々として湛へ、その森嚴にして雄大なる千古の聖帝が永遠に鎮まります聖地たるに相應はしきものがある。一度御陵前に立てば敬虔の念自ら起り、襟を正さざる者はない。蓋し我が國山陵中にありて最も大なるものであるばかりでなく、世界に其の比を見ざる處にして、世に稱して大仙陵——大山陵の意——と稱し奉るは寔に所以ありと謂はねばならぬ。

御陵の附近に陪塚あり、源右衛門山（二百七十八坪）孫太夫山（百二十二坪餘）龍佐山（五百八十八坪餘）狐山（百二十二坪餘）樋の谷（五百五十坪）丸保山（六百七十七坪餘）孤山（四百六十坪餘）長山（千五百九十坪餘）大安寺山（九百八坪餘）坊主山（四十九坪餘）銅龜山（百七十五坪餘）の十塚にして其の中の最も大なる長山は博士壬仁の墳墓なりこの説がある。

望拜仁德天皇大仙陵、仙陵恐山陵之訛、有池匝之、周廻一里、其大可舟、餘浸旁村民田

伊 藤 東 涯

雲銷蒼梧日色陰、長看耕墾不相侵、珠襦王匣千年間、石馬金輿何處降、經典三韓開帝學、

人煙萬戶軫宸襟、碧池固匝有餘潤、仍憶一抔遺澤深

此の詩にもあるが如く濠水は附近の民田數百町歩に灌漑し、千有餘年間未だ曾て旱魃の害に遭ひたるここがなく、大仙陵水利組合は灌漑水の管理をなし、數百戸の農家は聖明仁慈の遺徳にうるほひつゝある。

十三 履仲天皇の御事蹟

天皇は仁德天皇の皇長子、御母は磐之媛皇后に在はし、御諱は去來總別尊ニ申し奉り第十七代の天皇に當らせらる。仁德天皇二十七年己亥、即ち紀元九百九十九年御降誕あらせられ、同三十二年皇太子に册立せられ八十七年仁德天皇崩御あらせらる、や太子難波宮に在はして未だ皇位に即せ給はざるに住吉仲皇子、皇位を争ひて兵を擧げて、宮を圍んだので太子は平郡木菟を隨へて河内國埴生坂に逃れ、亞いで大和に移り石土振神宮に駐り給うた。時に皇弟瑞齒別尊遅れて至りたるを以て命じて住吉仲皇子を誅せしめ、二年二月即位の大典を舉げ都を大和に遷し磐餘稚櫻宮と稱し、四年始めて史官を諸國に置き各其の國の事を記録せしめ、六年始めて齋藏の傍に内藏を建て神宮の物を分收し、阿知使主壬仁をして其の出納を記さしめ齋藏の職を定め制度大に整うたが、同年三月十五日——太陽曆の四月三十日崩御あらせられた。御壽古事記には六十四歳日本書記には七十歳とあり、其の何れが眞なるかは知るこゝろがない。

同年十月己酉朔壬子百舌鳥耳原南陵に葬り奉つた。御陵は仁德天皇御陵の坤位にして泉北郡神

石料大字上石津にある。前方後圓形の四段に築き上げたる大なる山作りにして前後の徑は二百二間、後圓の徑は百九間、前方の幅は百十八間、高さ後圓部八十六尺、前方徑七十尺、周圍九百七十四間、兆域五萬二千八十一坪を包有し、陵上には古松繁茂し、周圍に大なる塹濠を繞らせ、仁德、應神の兩帝陵に亞ぐ第三位の大陵にして、附近には四個の陪塚連なり一は二十九坪、二は六十坪、三は八十六坪、四は八十一坪である。

十四 反正天皇の御事蹟

天皇は仁德天皇の第三皇子、御母は磐之媛皇后に在はし御諱は多遲比瑞齒別尊と申し奉り、履仲天皇の皇太弟にして第十八代の天皇に當らせらる。始め皇兄履仲天皇尙ほ皇太子にて在はせし時、御父仁德天皇の崩御に乗じ住吉仲皇子、皇位を奪はんとし急に兵を擧て皇居を攻圍した。よつて太子は亂を避けて大和國石上振神宮に駐り給ふたが、瑞齒別尊遅れて神宮に到らせられたので、太子は尊を疑ふて引見するを好ませ給はぬ。尊は他意なき事を辨疏し、平郡木菟と共に兵を率いて住吉仲皇子を討伐してこれを誅し亂を平けられたるより皇太子は大に喜びて功を賞せら

れ。既にして太子即位して第十七代の皇位を踐み給ふや其の二年尊を冊立して皇太弟とした、六年履仲天皇崩御あらせられたので、即位し元年都を河内國に遷し丹比柴籬宮と稱した。

天皇仁慈の徳に富ませ民を愛撫し、産業を奨めたまひ御在位の間風雨時に適ひ五穀豊に稔り、民泰平を樂み、風化國內にあまねく、其の御聖徳は仁德天皇にも劣りたまはぬほごであつたが、唯だ惜むらくは御世をしろしめすこと短かりしにより御事蹟多く世に傳はらないのである。

天皇六年正月二十三日——太陽曆二月十三日崩御、于時寶算六十歳、允恭天皇の五年十一月甲戌朔甲申百舌鳥耳原北陵に葬り奉つた。御陵は堺市三國丘町にあり御陵傍に楯井あるを以て又楯井陵とも稱し、前方後圓形にして後方は四段に前方は二段に築き前後の徑八十二間、後圓部の徑四十七間、前方の幅は六十三間、高さ後圓部四十二尺、前方部四十三尺、兆域一萬八千九十七坪御陵上には老松千古の翠をたへ、稚松繁茂していやが上にも御陵の森殿壯重を加へ參拜者をして敬虔の念を起さしむるに足るものがある。附近に陪塚二あり、一は二百一坪、二は二十六坪の面積を有して居る。

十五 御陵道新に成る

仁徳天皇の御陵に参拜するには堺市より上神谷街道に依るものも、堺市大道より竹内、高野の兩街道を経て御陵東方を經つものもこの二條あるも兩者とも狹隘にして人力車を驅るにも尙ほ困難なるに加へて晴天つづけば砂塵濛々として起り面を向くべき様もなく、一度降雨あれば忽ち泥濘脛を没するの悪路となり、参拜者の困難は名状すべからざるものがあつた。然ればこれが改修は數十年來の懸案なりしが、偶々大正六年五月 皇太子殿下御参陵あらせらるゝに當り御陵東方の細徑に應急修理を加へて僅かに鶴駕の奉送迎を爲したるとは、寔に恐懼措く能はざる處であつた、爾來御陵道改修の議は一層切實となり、堺市民の中には寄附行爲により改修せん企てたるものもあつたが、恰かも大正十二年 皇太子殿下には久邇宮良子女王殿下に御婚約整はせられたる旨御公表相成つたので、就任以來府民の輿論に鑑み大阪府下に散在せる十六帝陵、日本武尊の御墓改修の計畫を樹て實施の機會を俟ちつ、あつた府知事小川望氏は殿下御成婚記念事業としてこれを遂行すべく案を具して府會の議に附し其の協賛を得、大正十三年度に於て先づ仁徳天

皇御陵道改修工事實施の事に決してこれを發表するや、天皇の御聖德を追慕し、現神に在はしませんが如く追慕崇敬措さる大阪、堺兩市及び泉北郡の青年團員等は競うて該工事に勞力奉仕を請願せるより、當局も其の赤誠に動かされて願望を容れて勞力奉仕を許可した。

爰に於てか兩市一郡の青年團は一日の出勤人員約百五十名、毎日午前八時より午後三時三十分まで一時間半休憩を實働時間とし

- ◇大阪市青年團は七月二十日より同月二十七日まで八日間、五十九團體千八百二十七人
- ◇堺市青年團は八月二日より同月十四日まで十三日間、二十三團體二千三百七十人
- ◇泉北郡青年團は八月十六日より同月三十日まで十五日間、三十一團體、二千三百九十三人
- ◇皇風會 堺支部員は八月二十一日七十二人
- ◇大仙陵水利組合員は二百三十八人
- ◇堺高等小學校生は九月二十三、四兩日二百二十人

其の他の奉仕者を合して總延人員七千三百三十七人は土砂の採掘これが運搬等に從事したが時恰かも極暑の候、百度以上の日光直射の下をものもせず鋭意其の事に當り、一人の不平不満

を唱ふる者もなく、慣れぬ勞働に奉仕したる至純至誠、壯烈なる光景は眞に鬼神を泣しむるに足るものがあつた。

御陵道改修は附近住民が多年翹望せる處にて、工事の施行に當り堺市は金一萬三千八十四圓、内一萬圓南海鐵道株式會社より寄附、日本煉瓦株式會社は五百圓、堺市中垣ステ氏は金一千元を御陵道敷地買収費の内に、その他山本福次、南治好、川本松次郎、倉野利助の諸氏は道路敷地として田又は畑地を献納し、大阪、堺兩市及び泉北郡の官民は直接間接熱心に援助したので、工事は着々豫定以上の速度を以て進捗し、僅々二個月にして延長千百二十八間五分、幅員四間の坦々たる大道を完成し、御陵の森殿はいやが上にも加はり、参拜者の便はいふまでもなく、これによつて敬神崇祖、皇室敬仰の念を涵養するに足るものあるはいふまでもない、願れば約千六百年の昔天下の壯丁が勞力奉仕して築造したる御陵の参拜道が今又た青年の勞力奉仕によつて成就したことは古今の事績恰かも符節を合するが如きものあるは寔に、聖帝の御遺徳が廣大無邊なるがためであることは申すまでもない。

履仲、反正の二天皇御陵参拜道亦た荒廢年久しく仁徳天皇御陵道と共に多年改修の議ありたる

も未だ實現の期に至らなかつたが、これ又た 皇太子殿下御成婚記念事業として改修する事に

決し、仁徳天皇御陵道工事竣成後、大阪府は直營工事として經營し同年十一月中旬に竣つた。

斯くして百舌鳥耳原の三帝陵参拜道は全く面目を一新するに至つたが、恰かも大正十三年十一月

月 皇后陛下には京畿の地に鳳駕を進めさせ月の三十日を以て親しく仁徳、履仲、反正の三帝

陵に参拜あらせられた。其の際御前に伺候せる堺市長齋藤研一氏に對して仁徳天皇御陵道が青年

及び附近住民の勞力奉仕に金品の献納によりて完成せることを聞召され甚く其の功勞を嘉賞し給

ひ、御懇篤なる御言葉を賜はつたことは眞に無上の光榮を申さねばならぬ。

今や我が國の思想界は動搖常なく、國民の信念もために累せられ、我が國體の精華なる敬神崇

祖の美風或は衰頹するなきやを惧る、の秋に當つて國家の中堅たる青年の義勇奉公純忠至誠の精

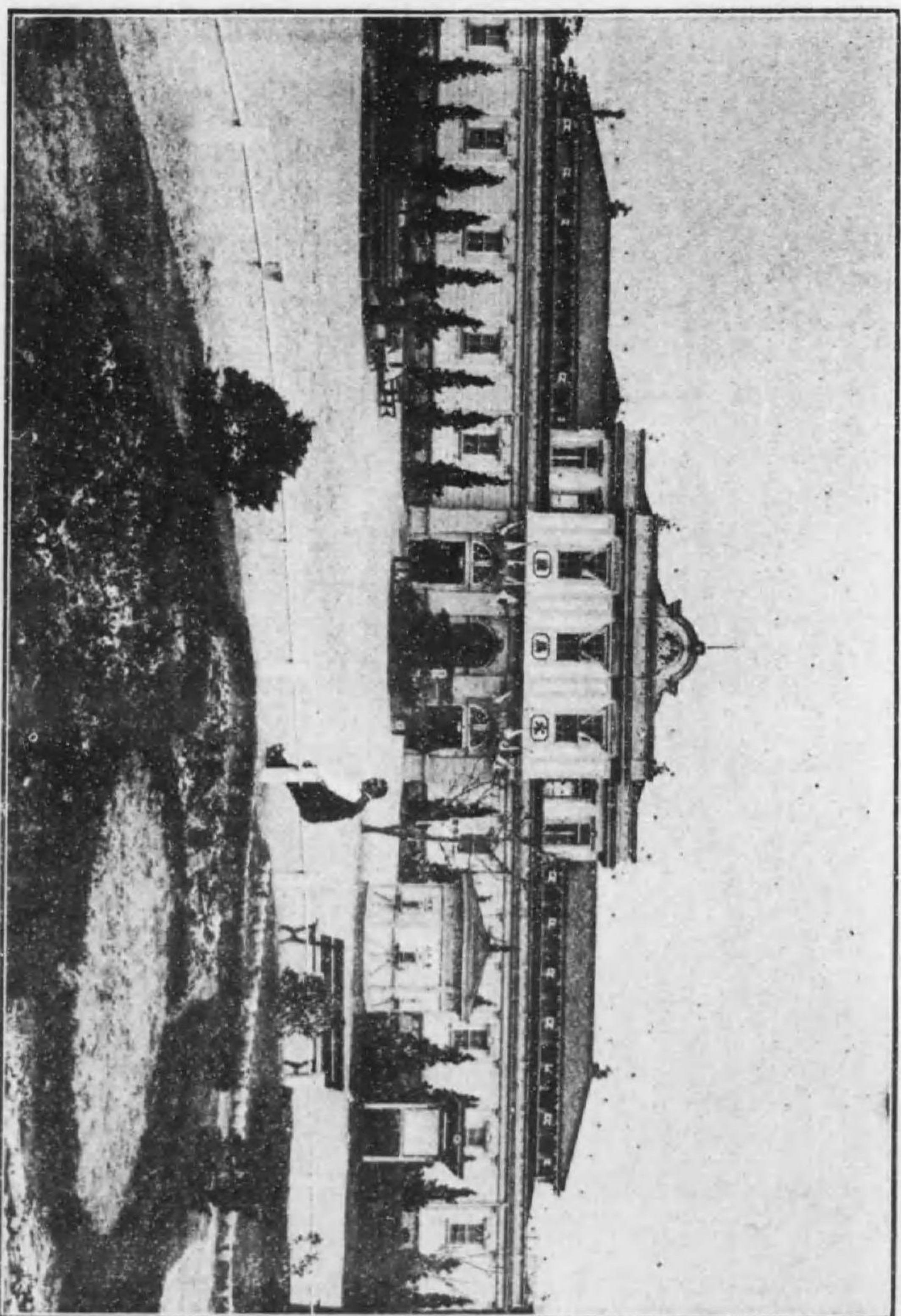
神が御陵道改修工事の施行によつて發露せることは眞に人意を強うするに足るものあり、之を録

して廣く世に知らしめ將又後世に傳ふることは決して無意義な事業にあらずと信する次第である

仁徳天皇御事蹟 終

釀造元 大阪造酢株式会社

至
 第一香味
 玉廼井酢



階上に
明治天皇 照憲皇太后
今上天皇陛下 皇后陛下 御座所あり

館 族 水 立 市 堺

附録

堺市大観

〔一〕古代の堺 堺市の起源は餘程古い太古は擬をき神武東征の際大和に討入り給ふに當り軍を整へさせられし地、或は皇兄五瀬命が流矢の創痕を養ひ給ひしより起つた茅渟の海邊は先づ大阪灣中の要地である堺若くば此の附近の海岸地帯であつたことは推斷するに難くない又神功皇后三韓征伐の際に御發着の地點としても幾多の史蹟を傳ふる如き更に仁徳履仲反正の三帝陵が堺の郊外に蒼鬱として千古の歴史を語つて古い町としての堺を證してゐる、降つて奈良朝の時代には既に都邑としての形をなし物資の集散地殊に海産物の供給地として又諸國行人の驛場として相當の賑ひがあつたことは古い文書に依つても窺ふことが能る、平安朝以降文物の發達にも海運も進歩し京師に近い唯一の良港として内海舟航の要津として漸次商業的に地歩を占め筑紫の那の津(博多)にも益々重要視される様になつて來たのである。

堺の地名に就ては種々の説があるが攝河泉三國の境にあるので境又は海岸に展開した町云ふ意味で左海沙界なごこいはれて來たのが事實らしいしかし境又は堺の名が文書に現はれたのはすつご後のこゝで鎌倉時代建仁元年後鳥羽上皇が紀州熊野權現に參詣せられた際京都から熊野までに九十九ヶ所の王寺社（休憩或は遙拜する處として）を設けられた中に境王寺の名が「熊野山行幸記」に見えるこれがをそらく堺の地名として現はれた最初のものと思はれる。

【二】堺の黄金時代 源平兩氏争鬪の時代から南北朝の時代に及では兵庫の港は軍事的政略的に重要な地位を占め堺の港は平和的經濟的の海口として發達し爾來足利幕府の末葉國を擧げて戦亂の蒼となり兵馬控徳政權争奪の世に及んでも織豊の時代に至つても堺のみは全く彼の西歐に起つたハンブルグ、ブレーメンの様な自由都府の状態で干戈の聲が遠ざかり武家の權勢にも恐れず盛んに海外と交易した即ち大船を仕立て、支那、安南、呂宋、暹羅の邊り迄も往復し西歐の文物東亞の珍貨を輸入し豪商軒を連ね巨船櫓を交へ戦亂を避けた諸國の商人は娯集して宛然天下の大富源たるの觀があつた従つて市中は殷賑を極め文學工藝美術の淵藪となり燦然たる黄金時代を現出したのである而かも豪宕不羈なる當時の市民は諸國の浪士を養ひ濠樓を築いて武力の壓迫に

備へ又市民中から十人衆或は三十六人衆なごを選任して合議自治の制を執つて純然たる平民都市を形成して居つた、かの天下の猛雄信長が京畿を席捲し本願寺を屠つた餘威を以て堺の市民に二萬貫の税を賦課した際の如き市民は頑として之を峻拒し檄を市中に傳へて市境の防備を嚴にし其の來襲を待つたので流石の信長も討伐の兵を止め爾後専ら懷柔の策を講じたといふに至つては如何に當時の堺に實力が充満して居たかを窺ふ事が出来る。

【三】現在の堺 往時にあつては丁度今の大阪と神戸とを兼ねた様な商業地であり貿易港であつた我が堺も時勢の變遷には如何にも出なかつた徳川幕府の鎖國政策によつて先づ海外交易に一大鐵槌を加へられ更に堺より遙かに地の利を占むる大阪の發展と共に商業的地位は彼に移り大和川の開鑿以來土砂の流積によつて年々港灣を填没せられては堺は遂にその活動の生命を失つて萎微衰頽徒らに内外の進歩發達を傍觀するの止むなき破目に陥つたのであつた、加之大阪に餘りに近接して居る爲め政治的にも軍事的にも經濟的にも將た教育的にも地方の中心勢力たるべき機關の何物をも置かれず全く有ゆる方面に閑散な地位にあつたこゝが一層堺をして内外に重要視せられるこゝを渺からしめたこゝはいふ迄もない。

然るに文化の進展は産業の發達を招來し戰捷によつて世界に名を馳せた帝國は更に産業的にも世界的優越なる地歩を占め明治の中期以降國を擧げて産業の興隆に目覺しく躍進するの時機に際會し商工業に立脚した都市が續々勃興して來た茲に於て我が堺も永い間の蟄居退嬰から再び蘇つて商工業都市としての新面目を發揮するに至つた由來商業の大市場たる大阪と世界的商港たる神戸が近いだけ商工業に便利な土地であり海陸の交通運輸の途も整つて居るので各種の製造工業も漸次盛んとなり輸出入貿易も累年増加し戸口も亦増殖して今や人口十萬を突破するの狀況を呈して居る更に軌道教育に衛生に上水道に或は各種の社會事業に道路港灣其他の土木事業に都市としての内容は着々充實整備せんとし一ヶ年六千萬圓を超える産業的生産額を有するに至つては本邦有数の産業都市と謂ふも敢て誇張の言ではない若し夫れ目下着々基礎的調査を進めつゝある都市計畫の事業が成案實施の曉には文化的産業都市としての大塚の建設を見るのも餘りに遠いことではない況んや市外地の編入によつて更に擴大された大阪市は和川を隔て、直接相對峙することとなつた今日に於てはかの雄大なる計畫の下に實現せんとする大大阪の建設と相俟つて洋々たる前途を有する我堺市は實に多忙であり且つ光明ある運命を抱いて居るものと謂ふべきである。

〔四〕位置と地勢

位置は大阪府の中央北緯三十四度四十五分東經百三十度廿七分に在つて和泉の國の北端である東は一帶に高く丘陵をなして夫れより南河内の平野に續き遠く金剛葛城の連峯を仰ぎ西は平坦なる市街地をなして大阪灣に菴み茅海の濤波を隔て、遙かに紀淡の翠岱を指呼すべく南は海岸線に沿ふて松の名所濱寺町に隣り北は大和川を以て攝津の國と境し大阪市の住吉區と相對して居る東西の最も長い處で四基米餘南北亦略ほ同じく面積は八平方基米 九五七（〇、五八一方里）で地盤は第四期層に屬し東部の高地は洪積層西部の低地は沖積層である。

〔五〕溫和な氣候

一年を通して平均の氣温は一五度一（華氏五十九度二五）で東京よりは〇度九高く鹿兒島よりは一度七臺北よりは五度九低い而して最高温度は三十六度四（華氏九十七度五）で最低温度は水點下三、五（華氏二十五度七）である而して餘り氣温の激變がなく大氣清澄且つ空氣は常に適度の濕潤を保ち一年間の降水總量は千五百十八耗三を示し本邦各地の中心にある冬季は北風稍強く往々降雪を見ることがあつても積ることは稀である夏季は常に西南の和風が涼を送り甚だしき酷熱を感じることは少い又暴風、颱風、地震、海瀟等の害を被つたことは古來甚だ稀で風土上誠に申分のない土地と謂ふことが出来る。

〔六〕道路と鐵道

國道は大坂市から本市の中央を貫通して南へ和歌山市に達する所謂紀州街道が一大幹線となつて居る府道の四線は東及び南へ放射狀に走つて和泉、河内、紀伊、大和に通じ何れも陸路の重要線となつて居る市内の幅員こそ狭いがその井然たる區劃に於ては本邦都市中京都市に次いで正しい街路をなして居るが郊外地に膨脹する新市街には完全なる道路が乏しく而かも數年來急速に増殖しつゝある住宅、工場等雜然として區劃整理の緊要なることを如實に語つて居る。の都市計劃部では幹線道路を始め道路網の調査計畫を急ぎ既に成案に近づいたが何分にも巨費を要するので實現までには相當の年月を経なければならぬ鐵道は總て南海鐵道株式會社の經營に係る線路で本線は大坂難波驛を起點として本市の西部を貫通し七道、堺、龍神、湊の各驛を置き海岸に沿ふて岸和田市を経て和歌山市に達し、高野線は大坂汐見橋驛から本市の東部郊外に入つて淺香山、堺東の二驛を置き南へ走つて南河内の各村邑を縫ひ和歌山縣橋本町に至り省線と連絡し尙進んで高野山麓推出にまで達して居る、兩線共電車を以て旅客及び貨物を運輸し普通車の外に直通、急行電車を運轉して居る阪堺線は大坂惠比須町から本市の中央を市街線となし大和川、高須、轅の町、神明町、妙國寺前、花出口、大小路、宿院、寺地町、御陵前の各停留所を

置いて濱寺公園に通じ尙ほ宿院から分岐して川尻、龍神、水族館前、大濱公園前を経て大濱海岸終點までの支線もあり所謂四通八達の便がある更に目下工事中に屬するものに大阪市の菅原町から大和川尻を渡り本市の戎島に入つて南海本線堺驛に連絡せんとする阪堺軌道工事には着手するに至らぬが本市の中央から東へ奈良縣高田町に通せんとする南大阪電氣軌道會社があり之等完成の上は縱横交通の至便なることに於ては多く他に比を見ざる都市となるであらう。

〔七〕堺港の現状

中世盛んに海外に交易した當時の堺港は今の港灣より東北六百米（現今の戎島の東部）の邊にあつたが寶永元年大和川の開鑿以來土砂流積の爲め河口に一大三角洲を現出して自然港灣を埋没するに至り内海の要津としての堺の生命を失ふの状態となつた寛政の頃に至つて江戸の人吉川依右衛門偶々港灣廢滅の狀を見て大いに遺憾とし幾多の困難を排して現今の位置に港灣の工事を完成した爾來數度の改修を経て今の堺港となつたのである而して明治の初年のころは水深も満潮時には四、米餘干潮時なほ二、米五を保つて優に千五百石積位の船が自由に入出するこゝが出来たが年を経るに従つて填没し現在では満潮面で三、米七干潮面一、米六の水深に過ぎず百噸以上の船舶は満潮時に於てすら入港困難の状態である市では年來多大の經費と努力を

拂つて浚疏を行つて居るが更に近く大型の浚疏船を購入して大いに港口及び港内の浚疏をなし一層港灣の利便を圖るこゝになつて居る斯くして當時二米以上の水深を保たしめ曳船及び舢舨の入港を便にして所謂舢舨貿易を以て神戸、大阪兩港との連絡を頻繁容易ならしむるこゝが最も緊要であり有利であり且つ簡便な方法である現在港内の面積十二萬七千四百七十七平方米港頭には燈臺（五等不動綠光）の設けあり港岸には大阪税關出張所入津料徴收所等がある。

〔八〕市政の沿革

後龜山天皇の弘和の頃山名氏清が居を此の地に置いて泉府と稱し後應永の頃に至つて大内義弘の占領する處となつた大内氏は濠壘を築いて本據を構へ且つ海港を開いて大いに海外交易を助長したが足利義滿に攻められて此處で敗死した爾來細川三好氏等の守護する處となり豊臣秀吉天下を平定するに及んでは石田三成を堺奉行とし徳川幕府亦堺奉行を置いて明治維新に至る迄凡そ三百年幕府直轄の所謂天領地となつて居たのである。

維新後は堺縣を置かれ和泉國第一大区堺區と稱し更に二の小區に分け明治十四年二月堺縣は廢せられて大阪府に屬し大鳥郡堺區と稱した明治二十二年四月市制を實施せられ堺市となつて今日に及んだのである而して明治二十七年二月には七道村（現在の東西七道町並松町）を市に編入し

大正九年四月一日泉北郡向井、湊の兩町を大正十四年十月一日泉北郡船松村が現在の市域となつたが近く泉北郡三寶村も編入の機運にある。

名 所 案 内

◎明治天皇御臨幸の遺趾

明治十年二月十三日 明治天皇大和より陸路河内を経て本市に行

幸あらせられ熊野尋常小學校に於て兒童授業の状況を贊はせられ當夜は中之町河盛仁平邸（現今の鈴鹿春幸邸）に御駐泊遊ばされた、今は何れも記念碑を建て且つ御調度品を保存し奉つて居る

◎市立堺水族館

大濱公園に在り明治三十六年第五回内國勸業博覽會を大阪に開催せられた際

其の附屬館として此處に設けられたものである。館内魚槽は當時水産界の大家飯島博士の考案に成り學術上の粹を盡したもので、東洋第一の水族館と稱せられて居る。明治三十六年五月五日には 明治天皇六日には昭憲皇太后の御臨幸あり、同月二十九日には 聖上皇后兩陛下（當時は東宮同妃に在し給ふ）御同列にて行幸啓あらせられ、次で内親王各殿下も御成遊ばされ、近くは大正十二年五月二十八日秩父宮殿下の御見學あり、一昨年十一月卅日には再び 皇后陛下の行啓を

仰ぎ奉り、數々光輝ある歴史を有して居る。

毎年四月から十一月まで開館し前面には花壇、猿舎、禽舎及び廣潤なる庭園があつて、教育資料として遊覽地としても貴重なるものとなつて居る。

◎大濱公園

港口を挾んで南北の海岸一帯を大濱公園といふ、茅渚の海に而し、遙かに摩耶六甲の山々淡路、紀州の翠岱を望み近くは濱寺の松の渚に長汀打ち續いて陽春の汐干狩に盛夏の海水浴に、さては水族館、潮湯、飛行場に四時遊覽の絶好地である、海岸には一力樓、茅海樓、丸三樓、川芳樓、丸辰樓、大濱ホテル、松波樓、丸萬樓、丸屋樓等の旅館、料亭揃比して旅客、滞在客の便を圖つて居る。

◎大濱飛行場

大濱公園の南端に在り、大正十一年六月開設、日本航空輸送研究所と稱し、井上長一氏の獨力經營に係る我國最初の民間定期飛行場である。

現今高松、徳島へ定期飛行をなし宣傳、通信、魚群發見飛行をも行ふて、近く四國、九州、朝鮮まで連絡定期航空路を開拓すべく計畫中である。又常に本市及び大阪市の上空を飛翔して、航空思想の涵養と飛行機の實用化に努力しつゝある、大正十二年五月二十八日、秩父宮殿下御成の光

榮に浴して全國に知らるゝに至つた、不幸にも昨年三月十二日の拂曉狂暴なる、旋風に襲はれて格納庫二棟、飛行機の大部分を破壊せられたが残る機體で定期飛行を繼續しつゝ専ら設備の復興に努力して居る

◎府社開口神社

甲斐町東一丁に在り、延喜式内の舊社で往古堺の起源をなす開口、木戸、原三郷の鎮守として三村明神の稱があつた。鹽土老翁神、素盞男命、生國魂神を祀り、神功皇后三韓を征し給ひし時明神奇瑞を現し給ふと傳へられる、境内廣く股賑を極め、名物大寺餅の店は南門の内に在る。

◎郷社菅原神社

戎之町東一丁に在り、菅原道真公、天穗日命、野見宿禰を祀る、本殿、樓門繪馬堂、聚樂館等輪奐壯麗境内は常に賑である。

◎郷社方違神社

三國ヶ丘町に在り、神功皇后御征韓の砌、天神地祇を勸請し給ひし所と傳へられて居る、方位厄除の靈驗顯著の神として祈願の賽者が絶えることがない。

◎東本願寺別院

本願寺派別院は神明町東二丁に在り、文明八年に本願寺中興の祖蓮如上人の創立にかゝり明治五年一時堺縣廳舎に充てられたが、廢縣後再び別院となつた。本堂方十五間結

構莊殿である、大谷派別院は櫛屋町東四丁に在り、慶長七年教如上人の開創で南御坊ニ稱する。大正五年十一月本堂大座間共に炎上し、今は假本堂である。

●南宗寺 南旅籠町東二丁に在り、龍興山ニ號す。普通國師の開創臨濟宗大徳寺派に屬する巨刹である、境内老樹鬱蒼として方丈禪堂山門諸坊の外、信長、信忠二卿の石塔、家康公無銘の塔座雲亭及び牡丹花肖柏、紹鷗、利久、趙陶齋の墓碑、紹鷗の實相庵、利久の大國庵等の茶室、古田織部の設計になる庭園も保存されて居る。

●大安寺 南旅籠町東三丁に在り、應永元年徳秀禪師の開基で一國寺の稱ものる。方丈は中世堺港海外交易の豪商呂宋助左衛門の故宅を移したもので、小學教科書にある「畫工の苦心」で有名な狩野永徳の枝添の松を始め藤、猿猴、鶴等の襖障子を存して居る外、松永彈正久秀刀痕の柱利久の時雨井等がある。

●妙國寺 材木町東三丁に在り、永祿五年日光僧正の開創にかゝり、日蓮宗の名刹である有名なる蘇鐵は庭前にあり寺寶亦多く四時遊覽の客が絶えない。

●土州藩十一烈士の墓 宿屋町東三丁寶珠院妙國寺の北側に在り明治元年正月十五日堺警備

土佐藩士と佛國水兵との争闘によつて、その責を負ひ死を賜はつた二十士の内隊長箕浦猪之吉以下十一士が妙國寺の境内で壯烈なる割腹を遂げた遺骸を葬つた處である。尙同寺境内には、後小松天皇御遺愛の紫藤がある。

●天誅組義士の上陸地 築橋通二丁目旭橋畔に在り期治維新の前文久三年八月十五日夜半中山侍從卿を盟主として倒幕の急先鋒をなした。義士の一行が上陸した處本市の志士故矢半田安朗が碑を建て、遺跡を保存せられて居る。

●大内義弘戦死の趾 元中九年より應永六年に至るまで、大内義弘城池を築いて本市に據り港を開いて海外交易を奨励し、威を四隣に揮つたが後、足利氏に背き畠山基國、斯波義重、細川義之等の兵に包圍せられ戦利あらず遂に戦死した、墓は西湊町の本行寺に在る。

●糸割符會所の趾 慶長七八年の交南蠻人ニ生絲の交易を許された。堺、京都、長崎の商人に糸割符の朱印を與へられ、糸年寄、糸割符取締、銀元締、糸目利等の諸役人が詰めて居つた處即ち堺浦貿易の盛況を語るべき舊蹟で此の敷地今は堺稅務署の廳舎となつて居る。

●奉行所の遺趾 堺市役所廳舎のある處は、豊臣氏から徳川氏の時代に涉り、明治維新に

至るまで、堺奉行所のあつた處で、市廳前の通りは今も「殿馬場」と呼んで居る。

●宿院 市内で最も繁華な處、住吉、大鳥兩神社の御旅所があり、活動寫眞常設館（卯之日座、電氣館）浪花節常設席（旭席）等があり、此處を中心として、山之口筋、大寺南門前一帶は商家軒を並べ店頭裝飾、電燈飾、美しく殷盛な街をなして居る。

◎以上の外古い都市平和な町並としての堺には探るべき史跡名勝が少くないが、此所には其の一部を紹介するにミツめた。

三國ヶ丘、香ヶ丘の高臺には菜の花、麥の緑に春半日の杖を曳くべく、大和川尻、大濱海邊に秋一日の釣魚の樂みがある。

近くは住吉の社頭に麥稈細工をかつぎ古歌に名高い、高師の濱や濱寺の松の木の間を逍遙するなき數々の興趣に富んで居る。

年中諸行事

大 拔 祭 毎年七月三十一日は官幣大社大鳥神社、八月一日は官幣大社住吉神社の神輿

が本市宿院の行宮に渡御の祭典がある、此の兩日は全市業を休んで非常な賑ひである。明治三十年頃までは、市中に數十の地車が練り廻されて名物となつて居たが、若者が血氣に逸つて衝突する様なこじがあつてからは中絶してしまつたが、賑ひは變らず、大濱の魚市もこもに有名である

大 魚 市 七月三十一日の夜は往古から堺の魚市として知られて居る、大濱海岸には和泉紀州は元より遠くは、中國、四國、九州方面の魚船が一面に集つて夜半魚市が開かれる皎々不夜城の様な電燈の下で潑刺たる鮮魚が躍る様は眞に壯觀である、之れが爲め大阪を始め近郷近在から遊覧の群集は海岸に渦巻いて、電車は終夜運轉し、水族館は徹夜開館して大濱一帶は一大歡樂境を現出する。

八 秋 祭 九月十二日は府社開口神社、同十四日は郷社菅原神社の秋祭で引續き船侍、方違の各神社の祭典は一週間に渡つて名物の蒲團太鼓が數十臺擔ぎ出され勇壯そのもの、様な太鼓の音が響き渡つて濃厚な郷土のお祭氣分が全市に横溢する菅原神社の船渡御も堺の港に豊かな情趣を添へる。

招 魂 祭 明治三十七八年戰役、後毎年祭典を行つて來たが、大正十二年から規模を大にし

て、五月十五日大濱水族館庭園に祭壇を設け、本市出身の戦病死者の爲め一大招魂祭を舉行するこの日は各種の餘興殊に勇壯な模擬戦等が行はれ、市民舉つて君國に殉じた英靈を慰めることになつて居る。

汐干狩 舊曆三月三日の上巳の節句は恰も年中を通しての大干潮である、春長閑に水温み大濱一帯の澁波ひねもすのたりくみ汐干狩に集ふ老幼男女は渚一面蟻の蝟集した様で壯觀を呈する。

釋尊降誕會 數年前から四月八日には大濱水族館庭園で催され、稚兒の練供養や太神樂其他の餘興で賑ふ。

地藏會 毎年八月二十三、四の兩日は全市各町では地藏尊を祭り紅提灯、繪行燈、造り物に意匠を凝らして賑ふ。

誓文拂 十月二十日前後五日間に涉つて誓文拂が催され市内山之口筋、宿院一帯の各商店では美しく裝飾して特別割引景品付の賣出しに群集雑踏し非常な賑を呈する。

魚祭 魚祭りは海神、魚靈を慰め以て豊漁をこころほぎ、あわせて海上の安全を祈るの趣意

にて古來海邊の漁場にて慣行の行事であるが、近來人心は年ごとに物質的となり、これらの由緒ある行事も次第に頹廢せんとするを慨き茅海灣内の魚祭りを神功皇后の釣占のゆかりにより去る大正十二年十月十五日第一回の祭典を行つたが、爾後毎年十月十五日を以て永久の祭日に定めたのである。當日は大濱水族館庭園内に祭壇をしつらひ神官は恭しく祭事を行ひ、沖合ではいこも嚴に撤儀の儀式を舉げられる。齋場より海岸までは畫家大家の手になれる百數十の繪行燈をたてつらね龍頭船は稚兒の供奉で曳きまわされ其他海の展覽會や、模擬店の開設、いろくな演藝もあつてなかくの賑である。

堺 病 院

(番〇二七堺話電) 丁二西町之市市堺

院 長 醫學博士 保 々 輝 雄

內 科 醫學博士 森 一 馬

皮外 科 醫學博士 保 々 輝 雄

產婦人科 醫學博士 太 田 鑒 吉

小 兒 科 醫學博士 田 川 入 郎

咽 喉 科 新瀉醫學士 宮 城 正 治

レントゲン科 京都醫學士 古 志 伊 藏

○本院ハ各科相互ノ連絡ヲ取り診療ノ適確ヲ期ス
○入院隨時、産室、及隔離病室ノ設備アリ

堺……唯一の百貨店……

佐野廣榮堂

堺市宿院鳥居前
電話堺九四〇番

於各博覽會金牌受領

登錄商標



品質本位——効力第一

長形、渦卷形

衛生有効人畜無害

蚊とり線香

薰物線香
蚊とり線香

製造元

香榮堂

樽井庄太郎商店

堺市大小路東三丁

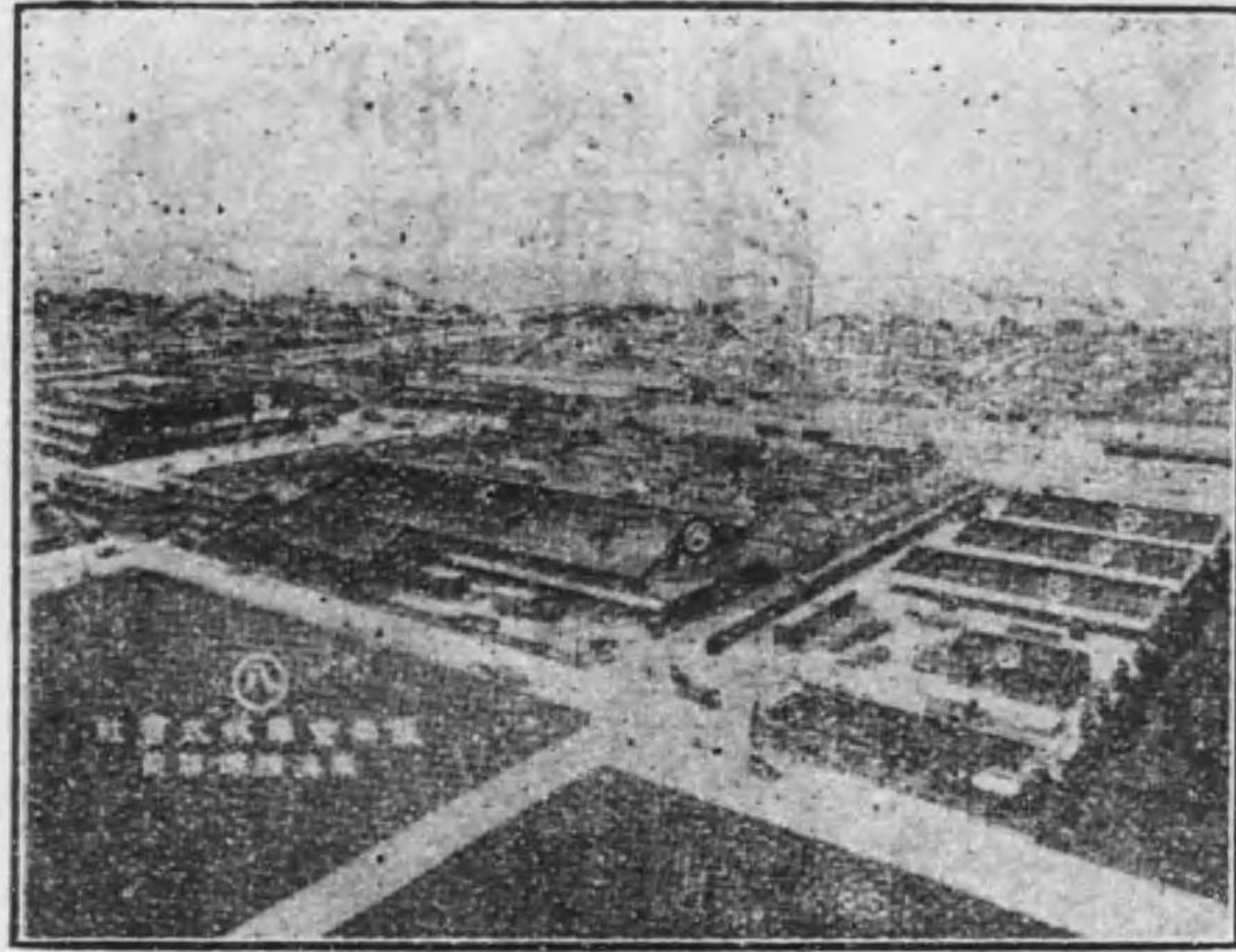
振替大阪七七四五番
電話 三三七番

大阪府堺市遠里小野町

近藤製藥所

電話堺九一番

業庫倉・業送運



社會式株庫倉南阪

國際運送興信部加盟店
中央計算第一種加盟店

本店

堺市戎島四丁四九ノ一

運送部

南海線堺驛前

電話堺長二八〇番
振替口座大阪六一二四番

諸敷物
椅子張地



合名
會社

高野商店

大阪市住吉區住吉町百八十二番地

支店 東京市神田區通新石町二一

電話 長戎四四六番
住吉五四四番

電話 長神田五二七番
大手六三二五番
振替東京六〇九六三番



海軍省指定

起業明治十六年五月
年産額十五万打

象スコップ
印シヤブル

大阪府堺市綾之町

浅香本店

電話堺(長一五三番
六四二番)

和洋建築
設計監督
地相家相

黒瀬建築事務所

大阪府堺市安井町

電話堺一ニ〇八番

醬油



最上

釀造發賣元

生島嘉久次郎

大阪府堺市

電話堺(五番)

大阪市西區立賣堀北通り二丁目明治橋北詰

大阪發賣元

大阪生島出張所

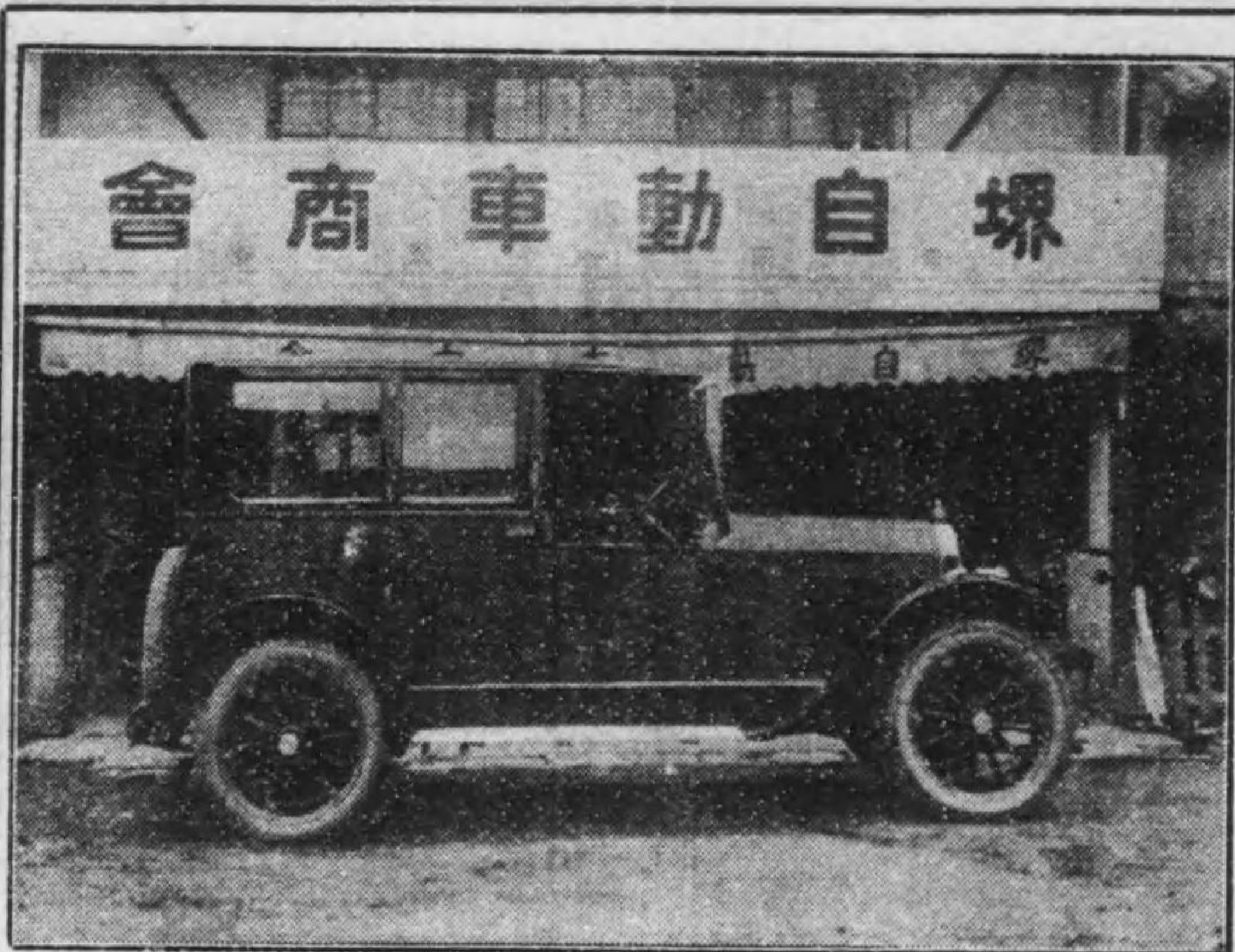
電話新町三四九番

婦產
人科 科

松嶋病院

堺市宿院町川尻

電話堺(五六一)番
(一〇八〇)番



高級輕快—賃金低廉

堺自動車商會

堺市宿院停留場前
電話 堺三五一五番

同出張所

同市南半町御陵前停留場前
電話 堺一六八五番

の自動車を御利用下さい

仁徳天皇御陵參拜の方は

有限責任 堺興業信用組合

大阪府堺市熊野町
電話 堺二五三七六二番

瓢水味淋發賣元



合名
會社

泉吉鹿嶋商店

ユニオンビル
三ツ矢サイダー
ダイヤ印焼酎

特約店

大正十五年五月二十日 印刷納本
大正十五年九月十五日 再版發行

定價一部金參拾錢

編輯兼發行
大阪府堺市熊野町四二丁十五番地
玉置住定

印刷人
大阪住吉區天王寺町二〇三八番地
加藤季雄

印刷所
大阪市此花區吉野町一丁目一三四番地
竹中弘文舍

不許
複製

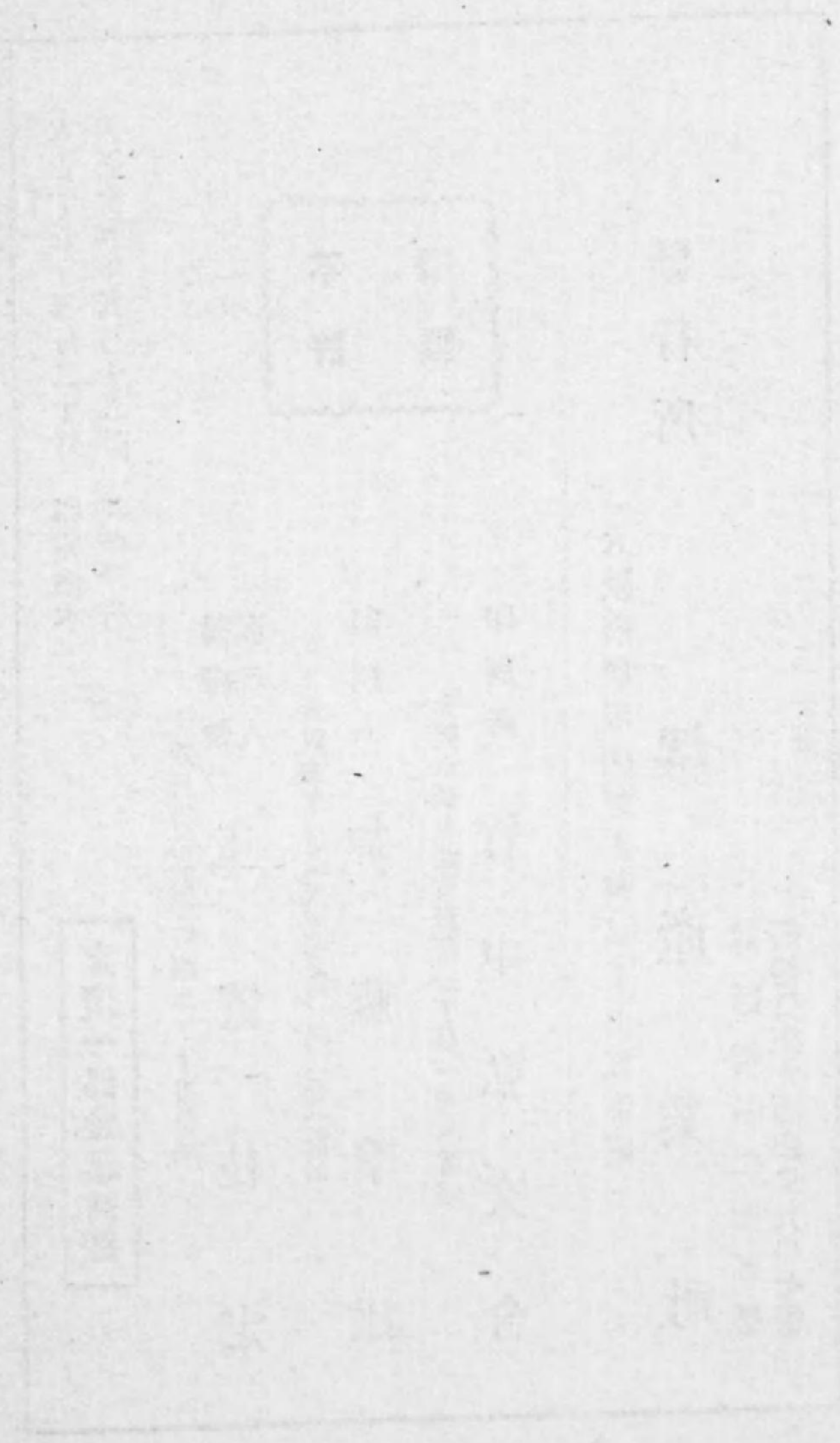
發行所

大阪府堺市熊野町四二丁十五番地

堺産業社

電話堺一二七五番
振替口座大阪四二九〇七番

295
364



終

